



FEV は、プロジェクト管理とビジネス・ソフトウェアのユニークな統合 IT ソリューションを実現

排気ガスの削減、エンジンの効率化もしくは新しい駆動システムの導入——これらは、今日の自動車産業が直面している課題の一部です。

FEV Motorentchnik 社(以下、FEV)はエンジニアリング技術を自動車業界へ提供し、自動車メーカーやエンジンメーカーがこれらの課題を解決することを可能にしています。現在 **FEV** は、**IFS Applications** によって同社の複雑なプロジェクトを効率化するのに必要な柔軟性を手に入れたことで、リソースを有効活用し、透過性の高いビジネスプロセスを実現しています。

中核ビジネスを拡大し、変化する市場の要求に取り組む

FEV のプロジェクトは、複数の階層で構成されており、多くの場合、その稼働期間は数年以上にわたります。このため、同社は、カスタマイズされたソフトウェア・ソリューションを頼りにプロジェクトや進行中の作業を管理していました。このソフトウェアは、FEV の IT 基盤の一部であり、スタンドアロン・ソリューションとして稼働していました。また、同社では、この基盤上に購買管理、コスト管理、会計といったシステムも導入していましたが、これらは別々に稼働し、互いに連携していませんでした。例えば、購買オーダー処理は Microsoft Outlook 経由で実行されていました。このようなソリューションを扱うのは簡単でしたが、あるデータを他のシステムで必要とするときはすぐに同じデータを何度も入力しなければならませんでした。さらに、これらおびただしい数のサブシステムが停止したりクラッシュした場合は 2 つ以上のシステムに及ぶ調査が行われるため、ユーザーは調査が終わるまで長時間待たされました。

90 年代の中盤に、FEV の経営者や各部門および IT 部門は、プロジェクト管理やビジネスプロセスに対応した統合ソリューションが必要であることで意見が一致しました。このシステム統合によって、FEV は中核ビジネスを拡大し、急速に変化する市場の要求を予測していくことができるはずでした。

役割に応じたプロジェクト管理機能

FEV は 2 年を費やして標準的なビジネスアプリケーションを徹底的に調査しました。しかし、FEV が求めるようなプロジェクト管理の要件をカバーする製品が無かったため、同社はドイツの ERP プロバイダーと共に、プロジェクト管理機能をアドオン機能として開発することを決断しました。この開発プロジェクトはかなり進展していましたが、1997 年、FEV は IFS 社を「発見」しました。IFS 社が提供する IFS Applications は、FEV が求めるプロジェクト管理の基本的な要件に対応した標準的なソフトウェアであり、発電所や油田といったプロジェクト型の建設業で長年培った経験に基づいていました。

最終的に、FEV は IFS Applications の導入プロジェクトを計画して同社のニーズに適応させることができました。例えば、IFS Applications にはロールコンセプト(役割に応じて機能を設定する概念)があり、これによって、プロジェクトの監督者からサブプロジェクトの管理者、さらにはチームのメンバーに至るまでカバーすることができます。また、プロジェクト内で割当てられた作業や作業状況に基づいてアクセス権を付与することができます。FEV の組織は多くの部門で構成され、これらは技術分野毎に縦割り分割されたり、産業もしくは顧客に焦点を当てたビジネス毎に分割されています。そのため、FEV にとっては、これらの部門毎に業務を識別する機能が重要です。このような組織の構成に基づいて、各々が必要とするカスタマーオーダー要件を満たすために様々なプロジェクトチームが協業しています。したがって、FEV のプロジェクト

FEV について

FEV Motorentchnik 社(FEV)は、ドイツのアーヘンに本社を構える独立系のエンジニアリング企業で、世界中に約 1,300 人の従業員を擁しています。2005 年 5 月、FEV は中国に新しい子会社を設立しました。同社の顧客には、ヨーロッパの自動車やエンジンのメーカーおよびサプライヤー、さらに米国の 3 大自動車メーカーやアジアのメーカーなどがあります。

FEV は 1978 年に創業し、エンジン技術の設計から始動に至るまでの先端技術を開発しています。さらに、測定設備や試験施設の建設や販売を行っています。



管理システムでは、予算の計画あるいはプロジェクトの進捗確認などといった個々の権限を柔軟に割り当てることができなければなりません。そのため、最低限の計画水準におけるプロジェクト活動には、正確な時間やコストを割り当てています。プロジェクトマネージャーは必要なときはいつでも最新の予算の明細書を受け取ることができます。

段階的な導入

FEV は 2 年かけてこのソリューションを導入しましたが、IFS Applications の構造はコンポーネントアーキテクチャーであるため、導入プロジェクトを管理のしやすいようにフェーズ毎に分割して行うことができました。つまり、ビッグバンの導入方式よりも、必要とするリソースや日々の業務への影響を軽減することができたのです。コンポーネント単位での移行がうまくいったため、新しいコンポーネントをそれぞれ直ちに稼働させることができました。

FEV は、会計機能の導入から開始し、その後、購買部門と管理会計部門でシステムを稼働させました。プロジェクトエンジニアにプロジェクト管理システムの読取り権限を付与したため、彼らはプロジェクトを実行しながら IFS のソリューションを理解することができ、短期間でこのシステムに慣れ親しむことができました。

一連の導入作業の間、FEV は、系統だったビジネスプロセスモデルを取り入れることが非常に効果的であることに気付きました。同社は「IFS ビジネスモデラー」を使用して購買部門のビジネスプロセスモデルを定義しましたが、時間に制約があったため、他のアプリケーションについてはモデルを使用せずに導入しました。それでもやはり FEV は、短期間で進捗をあげることに躍起になって、最も重要なプロセスを系統だててマッピングすることをおろそかにするべきではないと明言します。この作業によって、部門間のプロセスの調整にかかる時間を大幅に短縮し重複入力作業を省くことができるからです。FEV はこれらの効果を認識し、後から他のアプリケーションにもプロセスモデルを取り入れました。

より迅速な情報管理

現在、FEV の 500 名の従業員がこのソリューションを使用しています。そのうちの 150 名は、IFS Applications の導入調査プロジェクトを立ち上げて経過を監視したプロジェクトエンジニアです。FEV のプロジェクトの 1/3 は複数年にわたる大規模プロジェクトが占めています。これらのプロジェクトには、エンジンの構想から生産開始の支援に至るまでの全面的なエンジンの開発プロジェクトが含まれ、近年特にアジアのメーカーに提供されています。その他の 1/3 は、期間が 1 年以内のプロジェクトで占められ、これには製図からプロタイプ作成までの 9 ヶ月間に及ぶエンジン設計が含まれます。残りの 1/3 は、数ヶ月間の小規模プロジェクトです。例として、エンジンの音響特性の最適化などが含まれます。FEV は、このような様々なプロジェクト毎の要件に対処するために、新しいシステムにテンプレートプロジェクトを作成し、プロジェクトエンジニアがプロセスを定義できるようにしました。個々のカスタマーオーダーの複雑さの度合いによって、エンジニアが IFS Applications を利用してメインプロジェクトを複数のサブプロジェクトに分割します。

FEV は、プロジェクト管理と財務会計を統合したおかげで、以前よりも格段に早く管理情報を入手することができます。これまでは、月次決算処理を完了するのに翌月の 20 日まで時間を要していましたが、今では翌月の第一週目に完了することができます。さらに、自動化が進んだことによりデータ入力を削減することができました。そして、ビジネス KPI を明確化しただけでなく、今後、ナレッジマネジメントを強化していくことができます。

また、FEV の使用頻度の少ないユーザー向けのプロジェクト管理や管理報告、および購買管理を統合し効果を上げるために、現在 Windows クライアントに加えてポータル機能の導入を検討しています。IFS のシステムは Web に十分対応しているため、個人専用のコンピューターを所有していないユーザーであってもインターネットを経由して IFS のソリューションを利用することができます。このようなユーザーは、個別に設定されたポータルを使って各々の作業に必要な情報だけを参照します。FEV は、IFS Applications は同社の発展を促す要素の 1 つだと考えています。

効果

- ・ 一週間で月次決算処理を完了
- ・ 自動化を推進することでデータ入力作業を削減
- ・ より明確なビジネス KPI
- ・ ナレッジマネジメントの可能性

ソフトウェア

IFS Financials™
IFS Project Management™
IFS/Purchasing™

